

病理レポート未読率

算式

未読件数/総件数×100（％）

対象

組織診断レポート、細胞診レポート、術中迅速診断レポート

考察

すべての病理検査結果を確認し、診療に反映させることは、病理診断をオーダーした医師の重要な責務である。当院では、病理医が作成した病理診断レポートが必ず確認されるように、管理システムを導入して既読・未読レポートの数を把握している。どの程度の期間に病理レポートが確認されなければ未読と扱うかなど、未読率を算出するための統一された計算方法はなく報告も限られるが、基幹病院の未読率は0.5～14％程度とされている。当院の未読率は近年低下傾向となり他院と比較して同程度以上の水準となっている。

計画

今後も病理レポートの未読率を0％にすることを目標とし、さらに低下傾向となるようシステム構築を進めていく。未読が多い診療科や医師の異動に伴うレポート未読に対して、注意喚起を行う。継続的なモニタリングを行い、対策の効果を評価していく。

